

## 【2班 活動前半のまとめ】

### ■水の学習まとめ

<身近な水の大切さ>

毎日当たり前に使っている水ですが、その水がどこから来たか考えたことがありますか？

私たちは水の循環について勉強しました。

そこで驚いたことが2つあります。

ひとつは、地球上の水の総量が地球が誕生してからほぼ変わっていないということです。

もうひとつは、ドラえもんの頭を地球の大きさとすると、水の総量はドラえもんの鼻の大きさ程度しかないということです。

よく水不足と騒がれるなか、私たちは水の総量が減っていると思いがちですが、実は水の量は変化していません。

なぜ水不足がおきのでしょうか。

それは環境破壊によって気候変動がおき水の分布に偏りが現れているからです。

水を大切に使うことも大事ですが、身の回りの自然を保護することも水不足の解決につながります。



原田先生に教えてもらいました(^w^)/

## ■展示（制作）について知ったこと

- ・国立科学博物館の有田先生に展示作りのポイントを聞きました。

博物館疲労への対策

博物館疲労とは・・・

- ・立ったままで見る、読む、聞く
- ・薄暗いところで見る

⇒ 疲れる ⇒もう来たくない ⇒ 直感的に博物館の展示は難しい

- ・内容が難しい

対策

展示パネルは要点をぎゅっと詰めた200字程度にする

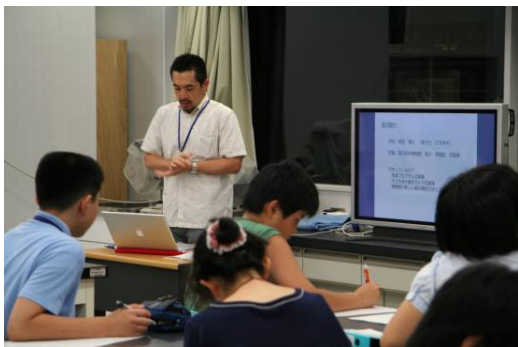
映像やイラストを入れる

ハンズ・オン（触れる展示）をいれる

これから展示を作るにあたって大事なことを教えていただきました。

- ①自己満足はだめ
- ②チームは協力し合う

普段何気なく見ている展示も、いろいろな工夫が凝らされていることがわかりました。でも、まだやっぱりちょっと疲れてしまいます。相手のことを考えることが大事だと思いました。



有田さんです (>u<)

- ・日本大学芸術学部の木村先生にサイエンスとアートがつながると、どんな展示ができるのか聞きました。

スイスの自然史博物館を参考にして説明してくれました。

「アートとサイエンスが融合した展示物をつくるには、双方が釣り合っていないと、「科学博物館」が「美術館」になってしまう。

ユーモアも大切。

何を伝えたいのかを考える。

細かいところまでこだわる。

周りの展示との調和を考える。

日常生活と関連付けるといいかもしれませんね。そしてグループ内の相手の話をよく聞くことが大事です。」（木村先生）

等の展示に関するお話もしていただきました。

よく見ているもの、普段当たり前と思っていることを違う視点から改めてすごいと思えるような展示を作りたいと思いました。



木村先生です（・w・）

・水の科学館、日本科学未来館、JAMSTEC横浜研究所に行ってきました。

水の科学館

わかりやすい展示の工夫をしていました。

水の科学館は子供向けでわかりやすく作られていました。

日本科学未来館

最先端の科学の展示があり、科学技術は日進月歩だと思いました。

JAMSTEC横浜研究所

3Dシアターが面白かった。

半球を手で動かす仕組み⇒自分で動かす楽しさがありました。



水の科学館。実験の様子です。d (・\_<)



日本科学未来館。わかりやすい解説。(・u・)



JAMSTEC。半球シアター！

## ■これからの展示制作

水が何も溶かせなかったら？  
水って不思議な液体なんだよ・・・  
水の変わりになるものは・・・？  
なぜこんなに水が重要なものになったのか。

というようなことをテーマに、これからの展示作りをしていきたいと思います。

また、グループ制作であるということ、展示される作品ということをお忘れずにやりたいと思います。

形態は、見るだけではなく体験できるもの、ユーモアがあり、見ている人をあきさせないような展示がいいと考えています。